

晴れの卒業式

昭和57年度

飛躍に向けての時期

総合図書館の建設始まる



昭和五十七年度卒業式は、三月二十五日(金)に行われ、千上山学舎では午前十時から第一部の経済・商工、午後一時から同じく法文・社会の各学部、また天六学舎では、同日午後五時三十分から第二部全学部の卒業式が行われる。

(第一部四七一名、第二部六〇名)、社会学部六二四名(第一部五七八名、第二部四六名)、および工学部八七一名、合計四、一〇〇六名である。

また大学院では、三月二十七日(日)に、博士課程前期課程および修士課程修了者、博士課程後期課程

今回新しく学士の称号を認められる者の数は、法学部七四〇名（第一部六〇九名、第二部一三一名）、文学部六九九名（第一部六一九名、第二部八〇名）、経済学部六四一名（第一部五六四名、第二部七十七名）、商学部五三一名（第一部四八七名、第二部四十四名）である。博士課程後期課程単位の学位修得者に対してそれぞれ修士の学位記、単位修得証書の授与式が行われる。修士の学位を授与される者は、法学七名、文学三二名、経済学三名、商学六名、社会学七名、工学一〇四名の計一五八名である。博士課程後期課程単位の学位修得者に対してそれぞれ修士の学位記、単位修得証書の授与式が行われる。修士の学位を授与される者は、法学七名、文学三二名、経済学三名、商学六名、社会学七名、工学一〇四名の計一五八名である。

修得者は、法学四名、文学二名、経済学一名、商学三名、社会学六名、工学一名、計九名である。この卒業生諸君の在学期間は、本学にとつても大きな飛躍に於いての時期であつた。創立一〇周年を満近（昭和六十一年）に於いて、五十五年には教学充実計画委員会が充足し、教学充実に於いての設計に着手した。五十七年にはその重点目標として、①国際交流の促進、②情報化社会に即応した教育研究の充実、③「開かれた大学」構想にもとづく諸施策の実現が掲げられた。そして、国際交流委員会と情報処理センターが新設され、それぞれの充実に向

て、目ざましいものがあつた。昭和十七年には第四グラウンドの竣工が完成した。このグラウンドは、全天候型の公認陸上競技場であり、また大学の体育施設として多目的、多用途に使えるよう配されてゐる。さらに生協の増築工事も昨年完成し、福利厚生施設の拡充がすすんだ。

さらに特記すべき事は、今年に総合図書館の建設工事がはじまつたことである。新設される総合図書館は、地上三階、地下二

A black and white photograph showing a large, dense crowd of people, likely students, gathered in front of a building. Many individuals are holding flags, and the scene suggests a significant public demonstration or rally. The crowd is diverse in age and appearance, and the overall atmosphere is one of collective action.

近隣から違法・迷惑駐車を一掃しよう！

自動車・バイク利用の通学・通勤は全面禁止

あるとは言え、正門から社会学部にかけての道路、逆に正門より大学院西裏の方角へ走る坂道はいずれもよく見通しが利くようになり、どこか違法・迷惑駐車もようやく姿を消した。一車公署」が最も顕著に現われている。路上に於いて、行き来する人々の

入り込んだ場所で不当な駐車をしている。こうした校道はおおむね近隣住宅の生活道路であるため、一般住民に多大の迷惑を及ぼす結果となっており、上記の四日間で、主なものに限っても十数件の苦情が大学へ寄せられている。小さな区画の道路に

公害」を惹き起こし、教育環境と生活環境を著しく荒廃させている。あつては、なほさらである。周辺自治会とも、致協力し、この際、近隣から違法・迷惑駐車を徹底追放したいものである。学生下ライバーの良識に

田舎に生きたる



學長
大西昭男

りもはるかに立派な存在であるとき、少くともその可能性を秘めた存在であるとき、だから私はあえて言う。その称名をいいたん捨てよ、と。関西大学の校友たることもしくはらは忘れてもらつてよい。忘れればなしで「んた幾つぶしが」、と作中のある人物が嘔んで吐き出したひびくことである。幕僚体制のうほかな。金も要らぬ、名も要らぬ、地位も要らねばいのちも要らぬ、裸、母のその生きた方を愉快の一語に尽きる。願わくは諸君のひたすら誠実に生き抜くしかない。

「ごうからの祝福とはなむけの言葉をお願いしたい。おめでとう。かちえられた士士の称号に諸君の一ひとりが立派に値するものと私は確信する。たが私はさらに強く確信する。諸君の一人ひとりが、その学士の称号よりよい。振り返ることなく、明日に向かってまいれ。」

私の最も尊敬する同時代人の一人である司馬遼太郎の『粟の花の沖』を読んでいると、私馬屋彦兵衛の、はじめは船乗りとして、やがて廻船問屋として、そしてついに、ロイヤル・階級」なるものを、一篇の主人公彦兵衛一人ひとりが、それぞれの全力を尽くして、歯牙にもかけてはいない。鎖国から開国へと激動する日本を導いた一人であるあの高木くさばを向いてもいられない。輝くで邁進していられない。なにをどうもかいていられないものがある。

Figure 1. The effect of the number of iterations on the accuracy of the proposed algorithm. The accuracy of the proposed algorithm increases with the number of iterations. The accuracy of the proposed algorithm is 100% when the number of iterations is 1000.

修得者は、法学四名、文学二名、経済学一名、商学三名、社会学六名、工学一名、計九名である。この卒業生諸君の在学期間は、本学にとつても大きな飛躍に於いての時期であつた。創立一〇周年を満近（昭和六十一年）に於いて、五十五年には教学充実計画委員会が充足し、教学充実に於いての設計に着手した。五十七年にはその重点目標として、①国際交流の促進、②情報化社会に即応した教育研究の充実、③「開かれた大学」構想にもとづく諸施策の実現が掲げられた。そして、国際交流委員会と情報処理センターが新設され、それぞれの充実に向

て、目ざましいものがあつた。昭和十七年には第四グラウンドの竣工が完成した。このグラウンドは、全天候型の公認陸上競技場であり、また大学の体育施設として多目的、多用途に使えるよう配されてゐる。さらに生協の増築工事も昨年完成し、福利厚生施設の拡充がすすんだ。

さらに特記すべき事は、今年に総合図書館の建設工事がはじまつたことである。新設される総合図書館は、地上三階、地下二

年々社会的
評価高まる

けるの努力が活発にすすめられて
いる。本年の遼寧大学との学術交
流協定の調印も、その具体的成果
のひとつである。

本号の内容

▼第1面 愚問(生きる) 四年間の出来事 近隣から違法・迷惑駐車を一掃しよう／千里雲▼第2面 道寧大学との交流はじまる 文化セミナー「大阪論」開講▼第3面 卒業後と母娘 地鎮祭を挙行 就職説明会 工学部特別講演会 卒業セミナー「関大通信」第14号発行▼第4・5面 学生時代を振り返って▼第6面 今、飛び立つ諸君へ▼第7面 卒業生に贈るの一冊▼第8面 大学生を悩ませたって 随想 コンピュータ講習会 新刊紹介 編集後記

併設される。完成のあかつきには、大学図書館としては日本でトップクラスの規模のものとなる。利用開始は昭和六十年四月の予定である。

と驚かす。いかにを言ふ
れば、おちつた。その時は、
に思へて、◆私たちに来ぬ
られてゐるのは、カニゲー
想ひをする必要なき勢を改め
る。た。広世界を見渡し
平和で民主的な日本を創るには
どうしたらいいか、自分の頭で
解答を作成することである。
cunning な奴だと他人に騙
わたり、何事にもまぐゆにな
らぬ。

(5・9)

併設される。完成のあかつきには、大学図書館としては日本でトップクラスの規模のものとなる。利用開始は昭和六十年四月の予定である。



学生時代を振り返って

今昔をたどる学生時代を振り返る。卒業生たちは、それぞれの人生で、学生時代をどう過ごしたのか、何を学んだのか、何を覚えたのか、何を思い出しているのか、を語っている。それは、それぞれの人生の軌跡であり、それぞれの未来への希望である。



もっと勉強を



和泉幸次郎

今、卒業生として、大学時代の勉強を振り返ると、やはり勉強が中心だった。特に、専門科目の勉強は、大変だった。でも、その過程で、多くのことを学んだ。知識だけでなく、思考力や判断力も身につけた。勉強は、人生の基礎となる。これからも、勉強を続けるつもりだ。

大切な人のふれ合い



宇藤晴一

大学時代、大切な人に出会った。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

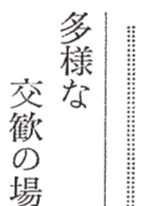
多様な



尾高芳子

大学時代、多様な人々に出会った。それは、私の視野を広げた。それぞれの文化、それぞれの価値観、それぞれの生き方。それらを知ることは、人生の大きな財産である。これからも、多様な人々と交流していきたい。

大切な人のふれ合い



野村太

大学時代、大切な人に出会った。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

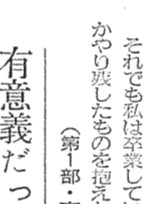
やうとする



岡崎秀規

大学時代、やうとする。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

有意義だった



加藤隆弘

大学時代、有意義だった。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

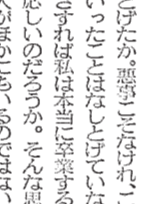
アイアム



田淵正人

大学時代、アイアム。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

何かを産みだそう、共に



竹内 淳

大学時代、何かを産みだそう。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

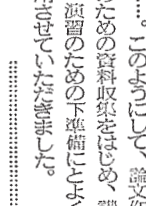
断ちがたい



中松京子

大学時代、断ちがたい。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

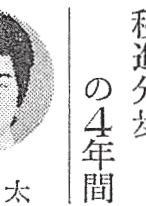
自分をみつめ直す



西上慶子

大学時代、自分をみつめ直す。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

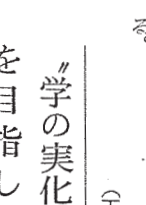
秒進分歩の4年間



三宅隆子

大学時代、秒進分歩の4年間。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

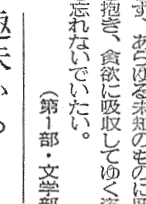
学の実化



宮浦智子

大学時代、学の実化。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

趣味からの展開



安田光男

大学時代、趣味からの展開。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

体験を通じて得た卒業の喜び



安田盛幸

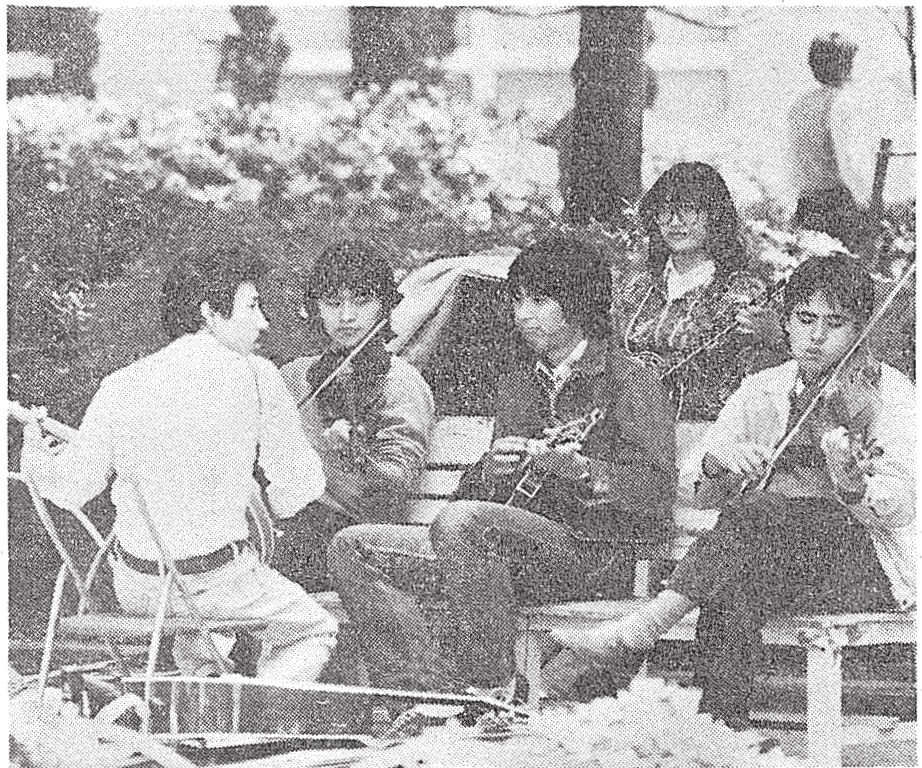
大学時代、体験を通じて得た卒業の喜び。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

音楽に打ち込んだ私



山本博子

大学時代、音楽に打ち込んだ私。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。



大学時代、音楽に打ち込んだ私。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。



大学時代、何かを産みだそう。それは、私の人生に大きな影響を与えた。その人のおかげで、私は、自分自身を知ることができた。そして、人生の方向性も見えてきた。大切な人のふれ合いは、人生の宝である。これからも、大切にしていきたい。

読書の思ひ出

大岩 正芳

子供の頃、父が毎朝新聞を購読して、毎朝新聞の購読料を父が払っていた。父は毎朝新聞を購読して、毎朝新聞の購読料を父が払っていた。父は毎朝新聞を購読して、毎朝新聞の購読料を父が払っていた。

卒業生に贈る一冊

これから社会に出て、卒業生に贈る一冊。これから社会に出て、卒業生に贈る一冊。これから社会に出て、卒業生に贈る一冊。

フランス人女性の日本批評

小川 悟

フランス人女性の日本批評。フランス人女性の日本批評。フランス人女性の日本批評。

世界的視野を養う

小谷 節男

世界的視野を養う。世界的視野を養う。世界的視野を養う。

卒業生から贈られた一冊の本

森井 暲

卒業生から贈られた一冊の本。卒業生から贈られた一冊の本。卒業生から贈られた一冊の本。

創造力の涵養に、人生の楽しさに

東井 正美

創造力の涵養に、人生の楽しさに。創造力の涵養に、人生の楽しさに。創造力の涵養に、人生の楽しさに。

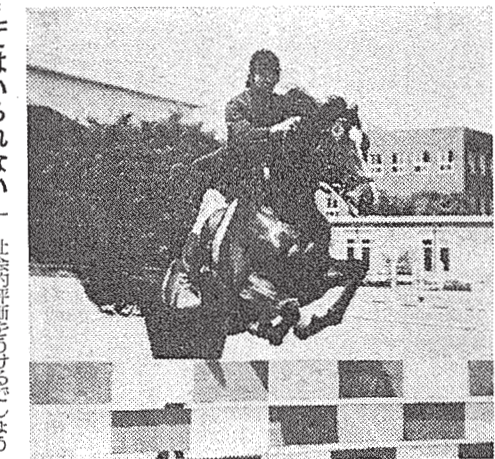
卒業が新たな彼岸の招来に。卒業が新たな彼岸の招来に。卒業が新たな彼岸の招来に。

社会に対する責任。社会に対する責任。社会に対する責任。

努力と根性で。努力と根性で。努力と根性で。

君へ飛ぶ今

50音順



三年後を案じて。三年後を案じて。三年後を案じて。

仕事にあたり。仕事にあたり。仕事にあたり。

自己啓蒙。自己啓蒙。自己啓蒙。

好機を逸するな。好機を逸するな。好機を逸するな。

卒業直後の体験は重要。卒業直後の体験は重要。卒業直後の体験は重要。

無欲に。無欲に。無欲に。

自己の真の対話を。自己の真の対話を。自己の真の対話を。

運命は自由開拓せよ。運命は自由開拓せよ。運命は自由開拓せよ。

無欲に。無欲に。無欲に。

自己の真の対話を。自己の真の対話を。自己の真の対話を。

